

追悼

喪主　鈴木　英介

当社創業者、故鈴木志郎は平成二十一年十一月二十一日、自宅で享年九十歳の生を閉じる事となりました。

その後の葬儀に際しまして、多くの社員や元社員、そして、取引先や故人の関係者の皆様から、温かいご弔意をいただきました。また、社員の皆様には葬儀の裏方としても骨を折ってもらいました。

この場を借りて、皆様に厚く御礼もうしあげます。

父は人だのみを嫌い、何事も自分でやらなければ気が済まない性格でした。こちらに掲げてある故人の写真も、本人が十年前に写し、葬儀の時に使うようにと用意したものです。

私たちがこの写真を蔵から持ち出し、開けた時、中から一通の手紙が出てまいりました。ここには、私たちに宛てて、納骨は自分が用意した墓に入れるようにとの指示とともに「自分の人生は運もよかったし、思い通りにする事ができた、幸せな人生だった」と感謝の言葉が書かれておりました。

父は九月から食欲不振が続き、念のためにと十月十四日、大学病院に検査入院し、そこで食道がんの末期と解ったのでした。年齢のため、外科的治療が不可能と解ると、一切の延命処置を断り、十月二十九日には自宅へ戻ってまいりました。

そして翌日、風呂に入り、一人で行きつけの床屋に行ったそうです。その後、自宅に点滴に来た医者に対して、「自分はこれ以上無理に生きたいとは思わないので、点滴はお断りする」とはっきりと申したのでした。

その後、食道にできたがんのために、水以外はほとんど摂る事が出来なくなりました。その間にも、何度も自分の力で起き上がり、周りの者の止めるのを聞かず、外へ行こうとさえいたしました。しかし、次第に意識のある時間は短くなり、起き上がる力を失っていったのでした。

十一月二十一日夜、容体が急変し、懸命の救命処置にも関わらず帰らぬ人となりました。その最期は穏やかな、満足した表情を浮かべておりました。





故人の最大の遺産である、新潟ビルサービスは、今後、私たち残された者たちで守ってまいります。

父は九十年の人生の内、五十五年をこの会社とともに過ごしました。まさに会社は人生そのものだったのです。また、この会社が今日あるのも、父の筋目を守る生き方があったからだと思います。

利と欲がはびこり、場の空気を読むことばかりが良しとされる現代において、意地を張り、筋を通す生き方は、時代遅れに見えたかもしれません。しかし、その一本の筋があってこそ、今日の私たちがあるのだと思います。

会社の利益は、事業活動の結果であって、目的ではありません。百七十年前の私たちの先祖、四代目間瀬屋佐右衛門は「金には筋の良い金と、筋の悪い金がある。筋の悪い金を残しても子孫のためにも、家のためにもならない」と書き残しております。

当社がこの新潟の地において、二百五十年、変わらず商いを続けて来る事ができたのも、この一本の筋を守ってきたからです。父の人生もまた、不器用に筋を通した九十年だったと思います。

合掌

故鈴木志郎略歴

大正9年8月26日	南蒲原郡井栗村須戸に生まれる
昭和14年3月	三条中学卒業
昭和16年3月	早稲田大学専門部卒業
昭和17年4月	法政大学経済学部入学
昭和18年	法政大学経済学部卒業
昭和18年12月10日	学徒出陣、横須賀海兵団入隊
昭和19年2月1日	海軍少尉任官
昭和19年12月25日	松山海軍航空隊入隊
昭和20年9月15日	終戦により召集解除
昭和21年4月	新生舎（雑誌社）勤務
昭和22年5月5日	鈴木喜代と結婚
昭和26年4月	塗料販売業間瀬屋従業
昭和31年8月	株式会社間瀬屋商店代表取締役就任
昭和38年4月1日	新潟ビル清掃社創業代表
昭和41年2月17日	株式会社新潟ビルサービス設立代表取締役
昭和46年10月	新潟県ビルメンテナンス協会会長
昭和58年4月26日	株式会社サンレンサービス代表取締役
平成16年4月29日	新潟県警備業協会副会長
平成21年10月14日	旭日双光章拝受
平成21年10月29日	検査のため入院、食道癌が発見される
平成21年11月21日	退院　自宅療養
	自宅で容体急変し、午後九時四十分死去